



古賀市在住 Tさんの住まい

## いい素材で美しくつらえた 住むほどに愛着が深まる家

光や緑を感じる開放感はあるけれど、ずっと心が静まるような陰影もある。コンパクトだけど、薪ストーブや隠れ小部屋など個性的なアイデアも満載。延床面積28坪の平屋にはTさん夫妻のこだわりが散りばめられています。



28坪のコンパクトな平屋は  
北側採光で穏やかな  
光に包まれて

長男誕生を機に家づくりを考え始めたTさん夫妻は、雑誌で「ハウズランド社」に興味を持ち、筑紫野市の展示場を訪問。自然素材にこだわる家づくりに大いに共感したという。時間が経つと劣化していく人工的なものよりも、キズや古さも味わいになっていく自然素材が好きなんです。経年変化を大切にしたいし、昔つくられたものを受け継いで使い続けるという考え方も好き。だから、職人さんの手でつくる自然素材の家に魅力を感じて、ハウズランドさんで建てることになりました。

間取りを検討するうちに、平屋の案が浮上。無垢の木や漆喰の塗り壁、床をタイルになど、一つひとつの素材にこだわりたいと考えていたTさん夫妻にとっては、コンパクトな家にするこは予算面での折り合いをつけることもつながったという。「小さな家なので、後から収納を買い足して置くのは

難しいだろう」と思い、家具や収納は最初から造作してもらうことにしました。広くない分、こだわることができました」と笑顔を見せる。

この家を語るうえでのもう一つのポイントが、北側採光。Tさんの土地は、南側は道路に面している一方、北側には実家が建っており、他人の目線を気にせず過ごせる庭があった。実は北側採光は直射日光が当たらないので、夏場も室温の上昇がゆるやかで、本や家具の日焼けも防げるというメリットもあるのだ。そこで、大きな開口部を北側に設けたTさん。「プライバシーが守られて安心です。北からの日差しはやっぱりいいです。光量は一日中安定していて快適です」。寒さ対策に暖房機能にすぐれる薪ストーブも設置。焼き芋づくりや料理の煮炊きにも使えるので、冬の楽しみも広がります。



壁は漆喰、屋根はショウラの洋風瓦。アプローチの階段は洗い出し



床はオークの無垢材、壁は漆喰。延床面積28坪のコンパクトな平屋でも、勾配天井で開放感たっぷり。収納家具はほとんどが造作

冬の寒さにも楽しみになる  
薪ストーブのある暮らし。

薪ストーブはエレガントなデザインのアメリカのパーモント社の「アンコール」。灯台と造熱盤の素材には漆喰と真鍮に特徴がある大谷石を選んだ

